

令和6年度

学生によるオレンジリボン運動

至学館大学 実施報告書



実施主体 至学館大学こども健康・教育学科 吉田ゼミ

実施内容 学内外の学生に対する啓発プレゼンテーションの展開

①事前に取り組んだ内容

普段のゼミ活動の中で、子ども家庭福祉や子どもの権利についての学修・討論を行ってききましたが、オレンジリボン運動への参加決定後は、児童虐待の現状を啓発サイトや関連資料、他大学のオレンジリボン運動等を調べて読み込み、それを基にゼミ内で意見交換をすることで知識を深めました。

そして、教員免許や保育士資格を取得する本学の学生を主な啓発対象に据え、教員や保育士にとって必要な知識を絞りこみ、いかにわかりやすく伝えるかを検討し、啓発用のプレゼンテーション資料をまとめました。マルトリートメントや児童相談所虐待防止ダイヤルなどの専門知識はもちろん、具体的に何が虐待にあたるのか、教師・保育士として職場でどうすべきか等を取り上げるなど、実践的な内容にしました。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

●児童虐待防止啓発プレゼンテーション

教員免許や保育士資格を取得する本学の学生を主な啓発対象にしつつ、里親支援イベントと一緒に参加した他大学の学生や本学の留学生などにも、オレンジリボン運動や児童虐待に関するプレゼンテーションを行いました。

●オレンジリボンに関する認知度調査など

プレゼンテーション時にオレンジリボンに関する認知度を尋ねるアンケートを行い、あわせて、プレゼンテーションへの感想・意見を用紙に記入してもらいました。調査の結果や感想・意見は模造紙にまとめ、大学内の掲示板やInstagramに掲示しました。

●活動のまとめと報告

活動を行うたびにInstagramを用いて活動の様子を投稿しました。また、アンケートの集計結果、感想をまとめた際にもその内容をInstagramに投稿しました。活動期間終了後には、学内報告会を開き、啓発プレゼンテーションに参加した学生に向けてアンケートの結果や主な感想の紹介、学びの成果を発表しました。

③オレンジリボン運動を終えて…

●オレンジリボンの学内認知度 UP

学内のオレンジリボン（運動）についての認知度は12.8%だったことから、今回の私たちの活動によって、多くの人にオレンジリボン運動を知ってもらうことができました。

●個人でできることを紹介し、具



活動用オリジナル
Tシャツのイラスト
(学生 川畑 花音さん作)



体的な行動を呼び起こした

ゼミでオレンジリボン運動専用のInstagramを開設し、啓発プレゼンテーションの終わりにそれを紹介することで、参加者が実際に「#学生によるオレンジリボン運動2024」の投稿に「いいね」をするなど、参加者の具体的な行動を呼び起こしました。

●私たち自身の意識と行動が変化

オレンジリボン運動を重ねるうちに私たち自身の児童虐待問題への理解と関心が深まりました。児童虐待に関するニュースにより敏感になり、ゼミ生同士はもちろん、友人や家族と児童虐待について話をするようになるなど、意識と行動が変化したことを実感しました。

●今後の課題

今回の活動を通して最も課題だと感じたのは、知らない人、つまり初対面の人への啓発活動の難しさです。お互いによく知らない人の話は素直に受け取りづらいため、お互いの心の壁をいかに取り除き、訴えかけていくかを次年度以降検討し、継続して取り組んでいきたいです。

【御礼】全国大会に出場し、奨励賞「グッドプレゼンテーション賞」を受賞

2024年度の全国大会に出場する機会を得て、奨励賞をいただきました。活動に行き詰まり、辛い時期もあったので、とても励みになりました。

私たち吉田ゼミでは、これからも児童虐待防止について、そして、子どもの権利が十分に保障される社会のあり方について考え続け、できることから取り組んでいきます。貴重な学びの機会をいただき、ありがとうございました。



↑啓発プレゼンテーションの様子



↑オレンジリボン認知度アンケート



↑意見・感想とアンケートのまとめを背景に